

第1回燕市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成30年11月27日(火) 午後3時30分～

2 開催場所 会議室301

3 出席者の氏名

市 長 鈴木 力

教育委員会

教 育 長 仲 野 孝

教育長職務代理者 黒 川 優 子

委 員 山 崎 克 弥

委 員 中 野 信 男

委 員 斎 藤 純 郎

欠席者の氏名

委 員 秦 久美子

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長 山 田 公 一 教育委員会主幹 二 平 芳 信

学校教育課長 宮 路 一 規 子育て支援課長 白 井 健 次

社会教育課長 更 科 明 大 地域振興課副主幹 五 十 嵐 潤 一

統括指導主事 小 泉 浩 彰

5 事務局書記

学校教育課 太 田 和 行 他 3名

6 傍聴人

2名

7 意見交換

(1) 人口減少対策について

・子育て支援の現状と課題について

(2) その他

会議録 別紙のとおり

1. 開会宣言 午後 3 時 30 分

2. 市長挨拶

一昨年の総合教育会議では、市内にある高校の特色化について教育委員の皆さまからご意見をいただき、県へ要望書を提出した。その後、分水高校は市の職員と一緒に様々な事業に取り組み、吉田高校はサポート協議会が立ち上がり、着実に成果が出てきていると感じている。

今回は、人口減少対策について意見交換をさせていただきたい。第2次燕市総合計画で子どもの出生数 600 人台を維持しようという目標を掲げていたにもかかわらず、平成 29 年度に 500 人を切るという厳しい状況になり、改めて少子化対策について検討するためプロジェクトチームを立ち上げ分析しているところである。今日はその概略をお示しし、ご意見をいただきたいと思いますと考えている。子どもの数が減るということは幼稚園・保育園・こども園及び小・中学校を所管する教育委員会に大きく影響することであり、深く関わるテーマであるため、教育委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

3. 意見交換

(1) 人口減少対策について

- ・子育て支援の現状と課題について

資料 1 人口減少対策プロジェクトチームの検討状況について

○企画財政課副主幹（五十嵐 潤一）が説明

資料 2 子育て支援の現状と課題について

○子育て支援課長（白井 健次）が説明

○委員（黒川 優子）

実際に、子育て中の親たちからは未満児の入園について苦慮しているという話を聞いている。一時保育などに預けた実績がある方が入園できる、祖父母が健康であると入園できないなどの噂まで広まっている。予算の問題などあると思うが、年度途中であっても、どんな家庭環境であっても、預けたいときに預けられるような環境を整備してほしい。

また、教育委員会で視察した静岡県藤枝市では、子育て中の親が相談できる場所が商業施設の中にあり、市の施設に行くよりも気軽に利用でき、子育てが楽しそうな雰囲気であった。転入者数が転出者数を上回っているという話も聞いたので、よい点を参考にしながら、女性が結婚したくない、出産したくないと思うことがなくなるような支援策を講じてほしい。

○委員（中野 信男）

自分たちが子育てしていたときの燕市は、未満児の入園もそれほど困難ではなく、共働

きであったため大変助かっていた。今現在、年度途中の入園が難しいという話を聞いて驚いている。保育園の入園を心配して、子どもを出産する時期を考えるような状況は望ましくないと思うので、対策を検討してほしい。

人口減少問題に関する書籍を読んだとき、現在の日本は高学歴化が進み、大学、大学院を出てから就職するので、結婚年齢、出産年齢が高くなり子どもを産める期間が限られ出生数が減っているのではないかと記載されていた。アメリカでは、学生のうちに結婚し大学に子どもを連れていくことが受け入れられる社会になっているので、日本も将来的にはそのような環境を整備する必要が出てくるのではないかと。実現できるかどうかは別として、燕市に大学を誘致し学生でも子育てできるような環境を整え、多くの若者に住んでもらうようにするというくらいの発想があってもいいのではないかと。人口減少対策というと、どの市町村も同じような案しか出ないため、それぐらいの柔軟な発想で考えていかないと難しいと思う。

○委員（斎藤 純郎）

燕市で子育てしたいと思ってくれる人たちが増えてほしいと思う。子育てや教育の特色化という点では、燕市は大変力を入れており、県内、全国においても、誇れるような事業を多く実施している。そのことが若い世代の人たちに伝わっているかという疑問である。教育委員会を含め市全体で PR していかなければならないのではないかと。「安心して子どもを産み育てられる燕市」であるということ、特に SNS を通じて PR していく必要があると思う。

また、高校訪問で家庭科の授業を見せていただいたが、家庭科にも様々な役割があると思う。授業の中で、結婚して子どもを産み育てることの大切さを教えることもできるのではないかと。高校の特色化事業の中で、家庭科の授業に力を入れるような支援を行っていただきたい。

未満児保育の問題では、子どもを預けて働かなければならないという事情があるので、予算の問題等もあると思うが環境の整備は必要だと思う。

○委員（山崎 克弥）

子育て世代の若い人たちから燕市に住みたいと思ってもらうには、どうしたらいいのかを考えた時に、やはり、子どもを安心して産み育てられる環境があるということだと思う。

そこで問題として考えられることは、まず一つ目に、現在は核家族化が進み子育て世代が親と同居していないため、日々の子育てで生じる不安を相談できる相手がいないということ。また、内容によっては友人や近所の人には相談しにくいこともあると思うので、いつでも気軽に相談できる支援センターのような施設があるといいのではないかと。

もう一つは、子育てと仕事の両立で疲弊している人が多いということ。仕事以外の時間はすべて子育ての時間であり、子育てに休みはない。その状況を改善し、休みを取れるようにしてあげることも必要ではないかと。市内の保育園一箇所からでもいいので、休日保育

を実施することができれば、親はリフレッシュすることができる。そのような面からの支援も子育て環境の改善に有効だと思う。

○市長（鈴木 力）

色々なご意見をありがとうございました。未満児保育の充実を含め、子育てと仕事を両立するための環境づくりがやはり大きなポイントであると感じた。教育委員の皆さまからは、身近にいる家族や従業員の状況から様々な問題についてご指摘をいただいた。プロジェクトチームが進めている対策の方向性は間違っていないので、それをしっかりと充実したものにしていく必要がある。

また、燕市の子育て環境は他の市町村に比べて劣っているということはないと思うので、上手く情報発信を行い、燕市を選んでくれる人たちが増えるようにしていかなければならない。これまでは、HP 掲載、専用メールアドレス開設等も行っていたが、今の若い人たちは SNS で情報を集め、SNS を利用して情報が拡散していくので、市も活用方法をもっと考えていかなければならない。

未満児保育の問題では、燕市の受け入れ枠が他市町村に比べ不足している状況なのか、年度初めだけではなく年度途中も含め調査し対応していく必要がある。

休日保育の対応については、現在私立きららおひさまこども園のみが休日保育を実施しているので、燕、吉田、分水地区に一箇所ずつくらい実施できるよう今後検討していく必要があると思う。

（2）その他

○委員（中野 信男）

今回の会議は、各種データの提示を受けての意見交換となったが、テーマとなる分野の専門家を招いて講義を受けるなど、知識を深める時間を設けた方が意見交換の際に情報量が増え主観に流されないやり取りになると思う。意見交換の時間も限られていたため、今後はより充実した会議となるよう在り方について考えてもらいたい。

○学校教育課長（宮路 一規）

本会議の在り方、進め方について、今後検討させていただく。

4 閉 会 午後 4 時 33 分